

研究課題：在宅で終末期をむかえた子どもの病理解剖に関する研究

1. 研究の目的

近年、人生の最終段階の在り方は多様性を増し、人生の最終段階を在宅で過ごすことを選択される小児患者は、成人患者と同様に増加傾向にあります。在宅で終末期を過ごされる小児患者の増加に伴い、人生の最終段階であることを小児患者本人やご家族が受け入れ、在宅死後に、病因の解明や医学の進歩に貢献したいなどの理由で、病理解剖を希望するケースがわずかでありますが、みられるようになりまし

た。本研究では、在宅で終末期をむかえた子どもに対して病理解剖の希望があった際の体制整備のために、その実行可能性と課題を抽出することを目的とし、埼玉県立小児医療センター病理診断科にて、終末期を在宅で過ごされた後に病理解剖を実施した症例の横断調査を行います。

2. 研究の方法

倫理委員会で承認を得られた日から2027年3月31日までに院外で埼玉県立小児医療センターから、在宅医療に移行し院外でお看取りされた症例と、院外でお看取りをされた後に当センターで病理解剖を実施した症例が対象となります。

電子カルテを用いて診療録を確認するとともに、実際に終末期を在宅で過ごし、病理解剖を実施したご遺族に対して、自由意思によるアンケート調査を行います。

3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から2027年3月31日までを予定しています。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

電子カルテから得られる臨床情報と、同意を得られたご家族からのアンケート用紙を用います。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：血液・腫瘍科 医長 荒川ゆうき

研究分担者：病理診断科 部長兼科長 中澤 温子

病理診断科 医員 市村 香代子

病理診断科 応援医師 渡辺 紀子

血液腫瘍科 部長兼科長 康 勝好

血液腫瘍科 医長 大嶋 宏一

血液腫瘍科 医長 福岡 講平

血液腫瘍科 医長 森 麻希子

血液腫瘍科 医長 三谷 友一

血液腫瘍科 医員 本田 護

検査技術部 副技師長 柿沼 幹男

検査技術部 副技師長 急式 政志

検査技術部 主任専門員 江良 英人

医療法人財団はるたか会 一小児がんセンター あおぞら診療所せたがや/国立成育医療研究センター 副院長 大隅朋生

医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所新松戸 院長 前田 浩利

医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所墨田 院長 戸谷 剛

医療法人財団はるたか会 あおぞら診療所せたがや 院長 石渡 久子

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2026年5月30日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）